

門真市中学生海外派遣研修
～We can do it!～

『帰国後交流会』を開催しました。

日時 2016年8月27日(土)
午後1時30分～3時30分

場所 門真市民プラザ内 4階
教育センター 研修室

出席者 三宅奎介教育長
長澤信之教育長職務代理者
磯和均教育委員
土川好子教育委員
細川由美教諭(第四中学校)
松本雄一(生涯学習課)

海外派遣研修生

重水 咲乃	(第二中学校)
棗田 桃帆	(第三中学校)
早瀬 咲良	(第三中学校)
米澤 琴花	(第三中学校)
浅浦 理友	(第三中学校)
新 笑穂	(第三中学校)
田中 陽菜乃	(第三中学校)
田口 入早	(第四中学校)
福田 希美	(門真はすはな中学校)

第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストで、最優秀賞、優秀賞を受賞した生徒9名が、7月30日から8月8日までオーストラリアのアデレード市に海外派遣研修に行ってきました。

久しぶりに9名の研修生が、顔を合わせ、教育長、教育委員を囲んで、各自が撮影した写真を見ながら、研修を振り返りました。

海外派遣研修に行く前と行った後で変わったと感じること、学んだこと、成長できたことなどを語っていただきました。

松本 皆さん、オーストラリアに行く前、英語に自信はありましたか？



研修生 なかったです。

松本 英語に自信がない中、会話をするとき工夫したことなどはありましたか？

重水 家では、テレビしか見てなかったんです。なので、テレビの話題でちょっとしゃべりかけてみたり、「これ何？」とか「この人誰？」みたいな感じでしゃべりかけるのが一番話が盛り上がったかなと思います。



新 何と言っていいか分からなかったときに、そういう雰囲気単語を言って、「これ？」みたいなことを聞かれたときに、「あ、それ」とか「違うよ」とか、自分の分かる限りやる、という感じです。



松本 分かる単語だけ拾って、繰り返すというのかな。

新 はい。

松本 他にこういうことを意識して、コミュニケーション取ってたよということはあるですか？米澤さんはどうですか？

米澤 自信を持つこと。伝えにくくてもジェスチャーとかで、頑張って、間違っていたとしても恥ずかしくがらずに、試してみる。そしたらなんとなく伝わって、会話ができると思います。



松本 他に、バディとの会話で、意識したことはありますか。

田口 分からなくても、簡単な文でも単語で返したり、聞き返したり、何か反応はした方がいいと思いました。



福田 私はホストファミリーに「何したい？」とかけっこう聞かれたので、「〇〇したいです」とか「〇〇してもいいですか？」とか、そんな文法をずっと使って

いました。



細川 「I Want to」とかね。



福田 そうそう。「I Want to」や「Can I」とかそういうことだけ覚えていたら、けっこう会話が成り立ちました。

松本 田中さんはどうですか？

田中 そのまま単語で聞き返してました。大体私のホストは、三日目ぐらいから全部「Do you」で聞いてくれたので、「YES」か「NO」だけで会話ができ、とてもやりやすかったです。何か言われたときは「This」とか単語だけで返したらけっこう会話が続きます。分からないときはずっと「〇〇が分からない」と聞き返したら、簡単な言い回しの「Do you」などで聞いてくれるので、聞き返すことが大事かなと思います。



松本 浅浦くんはありますか？

浅浦 とりあえず、しゃべること。僕はできるだけ、自分から積極的にしゃべっていたので、何かしら会話はできていました。



松本 浅浦くんは、初日に「疲れたからとりあえず寝させてほしい」とか、「朝ご飯は白ご飯が食べたい」とか、交渉してたらしいですが、その辺は思っていることを言おうと意識してたのかな。

浅浦 そうです。そうでないと、相手も困るので、思ったことを言っていました。

教育長 はっきり言うってことかな？



浅浦 はい。そうです。自分の意見を言うということです。

松本 早瀬さんはどうですか？

早瀬 「YES」と「NO」をはっきりさせることです。こっちが曖昧にしていたら向こうも何回も言ってくれて、それが分からなかったら、自分の方がパニックになってしまうので、「YES」と「NO」をはっきり

り言った方がいいと思います。



松本 棗田さんはどうですか？

棗田 「YES」と「NO」ははっきり言うのもそうだけど、分からなかったら分からない顔と、訴えかけるような感じを出していました。そうしたら、簡単な英語で言ってくれるので、単語だけ拾って聞いて「OK！」みたいな感じでやっていました。



松本 「YES」と「NO」をはっきり言うのもそうだけど、分からないときは「分からない」とちゃんと自分の状況を伝えることが大事ってことだね。

棗田 はい。

教育長 じゃあ結局、文章までできなくても、英語の単語をいくつか覚えていたら、生活できるってことかな？

棗田 大丈夫です。

田中 はい。全然。単語だけでいけます。

教育長 あれだけプレゼンのとき、上手だったのに。



田中 「Can I」 しかしゃべってないです。

松本 みんなはそうやってなにかしら意識していたと思うけど、実際行く前と行った後で、自分がこう成長できたな、とかここ変わったな、という部分はありますか？浅浦くん。

浅浦 英語に関しては、たまに洋楽とか聞いても、前まで聞き取れなかった英語が聞き取れるようになっていきます。発音もけっこう変わったと思います。

松本 英語の能力、ヒアリング力、スピーキング力が上がったってこと？

浅浦 はい。特に歌に関しては、だいぶ歌詞の言っている意味が分かってきました。

教育長 他の人はどうですか？自分の英語の能力が一定上がったと思いますか？

研修生 はい。

松本 他に、行く前と比べてこんなところが変わったというところはありますか？

田口 私は優柔不断なのですが、向こうで「YES」「NO」をはっきりさせるとか、自分の思ったままを言う様にしていました。日本に帰ってきても、自分の意思を伝えたり、「YES」「NO」をはっきり伝えるのは一緒かなって思いました。そういった性格の部分でも成長できたと思っています。



松本 それは日本に帰ってきても意識できていますか？

田口 意識というか、はっきりさせるようにしています。

教育長 日本ではあんまり「YES」「NO」をはっきり言わないよね。そういう文化がないですか？

田口 周りに合わせるとか、空気を読むというのがあると思います。場合にもよると思うんですけど、周りに合わせた方が団結できるというか、そういうのも大事だと思うんですけど、自分の意思を持つて言うことも大切です。場合によりますが、自分の意志は、はっきりさせた方がいいと思います。

重水 みんなといるのがとても楽しくて、ホストファミリーの家に帰ったときは、ちょっと寂しかったんですけど、改めて友達や家族がいてくれることって大切だな

あ、というのを英語でしゃべること以外で感じました。

松本 他、何かありますか？新さん。

新 私はとても人見知りで、顔見知りでもなかなかしゃべれないんです。でも、オーストラリアに行ったら、すごいフレンドリーにしゃべりかけてくれて、積極的にしゃべることは大事だと思いました。

日本に帰ってきてからも、お姉ちゃんの友達に会ったときに、普通にしゃべることができたので、積極的にしゃべることも大事だなと改めて思いました。



教育長 変わったな。

福田 私もけっこう人見知りで、初めて会った人とは全然しゃべれなくて、おとなしそうな子には、しゃべりかけることができ、見た目でしゃべりかけられそうな人だけに声をかけていました。でも、オーストラリアの人達はそんなこと全然関係なくて、日本人にも、すごい色々なこと話しかけてくれました。今までは、話しかけてしゃべれなければその子に失礼だなと思っていましたが、しゃべりかけられるだけでうれしいなと思えたので、これからは色々な人にしゃべりかけたいなと思いました。

教育長 なるほど。相手のことをあまり気にせず、自分の方からしゃべるということを、今まではしなかった。それはどう思う？日本では、福田さんのような考え方の人がけっこう多いと思う。私もそうなんだけど、相手のことを意識して、なかなかしゃべれない。でもこの人だったらしゃべりやすいからどんどんしゃべるとかね。

福田 でも、こういう人かもしれないというので気を遣うと、自分が思っているような人ではなかったときに、こっちが気を遣ったのに、という思いが残るじゃないですか。それだったら相手にも失礼というか、いらぬ気遣いという気がするので、話しかけてみて合わなかったら、やめておとくという感じがいいと思います。とりあえず知らない人でも話しかけることが大切だなと思いました。

教育長 自分の方からアクションを起こすことが大事ということだね。

福田 はい。

教育長 なるほど。文化の違いだね。どっちがいいとか悪いとかはないんだけど、日本人はもっともっとそういうところがあってもいいなあって思う。

福田 けっこう日本人は、しゃべらない方がいいという感じがあったりするけど、全然知らない人にもしゃべりかけられる方がいいなあって思いました。

教育長 いろいろ考えていますね。

松本 田中さんはどうですか？

田中 行く前に比べて、英語を聞いて、日本語に直すのが早くなった気がします。例えば、塾でテストがあってリスニングテストってなったときに、今までは、言っていることが日本語文で追いつかなかったのが、「ああ、こうなんだな」って分かるようになった気がします。

松本 米澤さんはどうですか？

米澤 向こうは英語しか伝わらないから、話すのも返事もリアクションも英語で取らなければいけなかった。帰ってきてからお母さんの友達の外国人の方と話すときに、恥ずかしがらずに伝えられたり、リアクションも取れたりして、話しやすくなっていました。

松本 早瀬さんはどうですか？

早瀬 行く前は、英語がテレビや色々なところから聞こえてきたとき、英語が流れてるなあと思わなかったです。帰ってきてからは、テレビで流れているときに理解しようと、より英語に興味を持つようになりました。

松本 棗田さんはどうですか？

棗田 よく Youtube を見るんですよ。見ているときにドラマで英語がぶわーと出てくるときがあるじゃないですか。それを

今までは日本語が付いているのを選んで、今は英語のみにして読んで、聞いて、「あーこうやな、分かるわ」ってちょっと自分に自信を持つようになりました。



教育長 なるほど。

松本 行く前と行った後ではそれなりに何かしら成長して帰ってきていますね。

教育長 やっぱり成長していますね。

磯和教育委員 クラスメイトと地べたに座ってランチを食べて、リンゴの芯の投げあいをしたという話がありましたが、日本では見ない光景ですね。文化の違いとか、ライフスタイルの違い、こんなんあったんだけどっていうのがありましたか？ショックを受けたことなどがあれば教えてください。



田中 日本って食器洗って綺麗に流してから置くじゃないですか。それがオーストラリアは、桶みたいな所に水を入れて、洗剤を入れて、泡立てて、ざぼんと入れ

て終わり。お風呂の時間削ってもいいから食器ちゃんと洗って欲しいと思いました。それが一番びっくりしました。

教育長 ホストファミリーと生活していて、そういう生活習慣の違いって気が付かなかった？

福田 全体的に寝る時間が早いなあって思いました。

田口 おやつタイムがありました。おやつが出てきたり、クラッカーにチーズとかサラミとか、そういうのがありました。

田中 日本には学校に売店が無く、外で食べることも無い。私たちは給食なので。向こうでは、リンゴ丸かじりとか、毎日が遠足みたいでした。

田口 そういうランチ用の小さいリンゴや小分けになったクッキーやお菓子が現地のスーパーにランチ用で売っていました。

教育長 それは売店で？

田口 いえ、街中のスーパーで。学校にもそういうのがありました。

松本 昼休み前や二時間目終わりのときなど休み時間によく食べていたよね。売店で買って食べている子もいれば、りんご食べている子もいたよね。

教育長 授業を受けながら、食べることは無かったですか？

田口 携帯使ったりはありました。

田中 技術の時間にフリスビーで遊んでいましたよ。

教育長 先生は注意しないの？

田中 全くしないです。

松本 それは、先生によって差があるように感じました。

田口 メイクしている子が多かったです。

米澤 ネイルとか、ピアスとか。

教育長 同じ中学生で？

田口 1つ下の学年です。

教育長 日本では怒られそうだね。向こうの学校で、これは日本でも取り入れた方がいいのではないかと思うことはなかったですか？

田中 売店が欲しいです。

教育長 自由には買える売店があった。ということはお金も自由に持って来ているの？

田口 はい。バスで帰る子もいるので。

教育長 スマホも自由に持って来ているの？

田口 はい。

教育長 その辺りが違うね。どっちがいいのかな？

田口 人によると思います。その人がどう使うかだと思います。

教育長 日本はどうしてスマホを持って来ていけないことになっているんだろうね。

田口 それは、授業に集中できなくなるからじゃないでしょうか。

教育長 日本のような学校でいいと思いますか？

田中 日本は、もうちょっとゆるくてもいいかなあと思います。

土川教育委員 浅浦君。アメリカンフットボールをやっていると言っていましたが、オーストラリアでは、どんなスポーツが多かったですか？



浅浦 やっぱオーストラリアンフットボールが多かったです。あと、バスケット、水泳。

土川教育委員 プレーされましたか？

浅浦 バスケをやりました。あと、水泳も僕はしているので、水泳の話も色々しました。

土川教育委員 スポーツは言葉を超えますね。

浅浦 そうですね。

土川教育委員 田口さん。だんじりのプレゼンをしていましたよね。相手に分かってもらえたか、とか、反応はいかがでしたか。

田口 プレゼンが終わった後に、間違えちゃったって言うと、良かったよ、全然そんなことないよと言われました。今は、ラインを通じてやり取りしていて、ちょうど今週から太鼓の練習が始まったので、その様子を写真撮って送ったり、次は動画を撮って送ろうと思っています。写真を送ったときは、「わー驚いた」みたいな返事がきました。すごく良かったなと思いました。

土川教育委員 動物園に行っていたと思うんですが、日本だったら動物園にあまり行かないと思いますけど、なんで動物園に皆さん行ったのですか？連れて行ってくださったのですか？

田中 自然に触れる事がすごく多くて、間近でカンガルーに餌をやるんです。日本ではできないじゃないですか。コアラを触るとか。向こうのオーストラリアの動物は、日本にはいないので、それを間近

で触れられるのがいいと思います。

土川教育委員 向こうの大人の人たちも動物園にはよく行かれるような感じでしたか？

田口 はい。すごく近くに動物園があるからだと思います。

土川教育委員 日本人コアラ好きですね。外国に行かれて、こんなことが印象に残っているということがあるかどうかと、外国の大人と日本の大人とでどういう違いがあるかを感じられたことはありますか？

田口 向こうの人は「YES」「NO」をはっきり言う。やっていいことしか言わない。日本人は気を回して聞いたりする。相手をまず考えて、2番目に自分を見ることが多い。オーストラリアは、これは「あかん」なら「あかん」と言ってくれますし、「良い」なら「良い」と言ってくれます。「これを買ってあげようか？」とか言うときも、やっていいと思うことしか聞かない。そこはちょっと違うかなって思いました。

土川教育委員 他の方はいかがですか？特に気になったこととかありますか？

福田 ホームステイ先で、冷蔵庫の使い方とか色々教えてもらった後に、「いつ冷蔵庫を使ったらいいですか？」って聞いたら、いつでもいいよ。ここはあなたの家だから。と言ってきて、すごい緊張が

ほぐれました。

土川教育委員 私が外国行ったとき、アメリカに行ったんですけど、「sorry」っていう言葉が1日中ずっと聞こえてきました。エレベーター乗るときにも「sorry」って言って入ってきたりしていたのが印象残っていたので、聞かせてもらいました。



米澤 スーパーですれ違った他人とでも会話をし、盛り上がっていて、ちょっとした会話で仲良くなっていました。それがすごいなあと思いました。

松本 向こうで学んでから、これから日本での英語の授業に対しての姿勢、意気込み、今後どういう風に英語を頑張っているって思うところはありますか？

細川 日本での英語の授業ってどう？

福田 英語だけの授業と日本語だけの授業があっても良いかなって思います。

田中 英語の本の音読の時間が欲しい。

浅浦 文法的な英語よりも海外で役に立つ日常英会話をどんどんやった方がいいと思います。勉強という英語よりも、僕た

ち将来、絶対に英語が必要になると思うので、そのための英語を習った方がいいと思います。

松本 これから英語を勉強しようと思う？

浅浦 したいです。

教育長 使える英語ってこと？

浅浦 日常的に使える英語です。

教育長 今はそうっていないってこと？

浅浦 今はなっていないと思います。

教育長 Youtube で日本の字幕有で見てたけど、英語でも挑戦してみようと思ったと。そういう風になるようにするには日本ではどうやったらいいと思う？オーストラリアに行ったらそうなった？

梶田 英語の授業のときに、もっと生徒同士が英語で聞き返したりする練習も必要かなと思います。

教育長 やってはいけど、それが少ないということだね。

田口 英語は勉強というか書いて覚えるテストみたいになっている。「このときは、こう」みたいな決まりきったものになっている。実際は、聞かれたことに対しての答えはたくさんあるので、もっと日常会話、言葉としてもっと使えるものを練習できたら、もっと伸びるんじゃないかなと思います。

松本 それでは時間となりましたので、交流会を終了したいと思います。

